

チャイルド・ファンド・ジャパンだより

[スマイルズ] 2008年5月NO.12

SMILES

<http://www.childfund.or.jp>



シリーズ“食べる”

1

ランプの灯の下に、両親と9人の子どもたち全員がそろった夕食の時間。
とうもろこしのひき割りを炊いたものに、塩味のモンゴ豆スープをかけて食べます。
トウモロコシはお米が買えない人たちの主食です。

写真: センター46 (フィリピン: セブ州バリリ)

ChildFund
Japan

特集 フィリピンの少数民族

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、
アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、
家族と地域の自立を目指した活動をしています。

特集 フィリピンの少数民族

～厳しい現実に揺れる素朴な暮らし～

フィリピンは、7,000以上の島に100以上の民族が暮らす“多民族”の国です。昔から豊かな自然の中で固有の文化が育まれてきました。しかし、16世紀に始まるスペインの植民地化以降、少数民族は住み慣れた土地を追われたり、社会サービスを十分に受けることができないなど、今なお厳しい暮らしを強いられています。

チャイルド・ファンド・ジャパンが支援している地域では、生活の基盤を確保し、少数民族であることに誇りを持つことができるよう様々な取り組みをしています。



イフガオ族の棚田は“天国への階段”と称され世界遺産に登録されています

センター28

＜イフガオ族に属するアヤガン族＞

ルソン島北部の山岳少数民族。以前は焼畑農業による生活をしていましたが、現在は傾斜地の痩せた畑でトウモロコシ、イモなどを栽培している。電気を使用する家庭は8%。(次ページで特集しています。)



竹と木でできた“クジャピ”と呼ばれるパラワン族の弦楽器。伝統文化の継承も大切な支援です。

支援プロジェクト ＜パラワン族＞

肥沃な土地を追われ、安全な水の確保や慢性的な栄養不良に悩まされるパラワン族の子どもたちへ「生活改善プロジェクト」を実施。成人の識字率が2割という状況をふまえて、大人への識字教室を開いている。詳細はP6の出張報告をご覧ください。

チボリ族のチャイルド。



センター43 ＜チボリ族＞

政府が先祖伝来の土地の所有権を認めたものの、多国籍企業による土地の買収のため、活動の継続が難しくなる地域が出ている。大学が運営するセンターでは、地元行政とも連携して支援を行っている。



山岳民族の伝統的な衣装を身につけるチャイルドたち。銅鑼のリズムに合わせて、ワシを模したダンスを踊ります。

センター47 ＜カリंगा・トングラヤ族＞

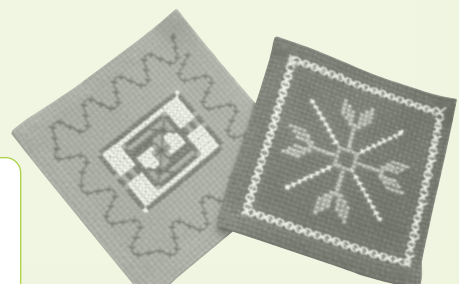
平野部で米、トウモロコシなどを作るが、現金収入で暮らす習慣が定着しておらず、収穫物は自家消費にまわってしまうことが多い。長年にわたって部族間の抗争があったが、近年は和解がすすんでいる。センターでは堆肥づくりによる有機農業をすすめている。



水上のバジャオ族の家

センター34 ＜バジャオ族、マノボ族、タウスグ族など＞

イスラム教徒とキリスト教徒が平和を保っているこの地域では、海洋沿岸のバジャオ族、山間部から降りてきたマノボ族など複数の民族が暮らしている。近年急速に開発が進み、近くには日本に輸出されるマグロの漁港があるが、チャイルドの親の多くは零細漁民として生計を立てている。



チボリ族の刺繍のコースター。刺繍の文様は、風や山、動物など身近な自然をモチーフにしており、1つ1つに“長寿”“家内安全”などの意味が込められています。

チャイルドと同じ少数民族の出身である、
センター28の前センター長 レベカ・W・ブマヒットさんに聞きました



レベカさん(中央)現在はイフガオ州職員として活躍しています。

Q レベカさんは、イフガオ州ラガウエにある支援センターで12年間働かれましたが、イフガオ族について教えてください。

A 私たちは、ルソン島北部のイフガオ州を中心に生活しています。世界遺産として登録されている世界最大規模の棚田がイフガオ州バナウエにあります。私たちは棚田などで農業を営む民族です。イフガオ族の中には、私が属するアヤガン族、そしてバナウエ族やキアンガン族というサブ・グループが存在します。

Q アヤガン族の人たちの置かれてきた状況は？

A アヤガン族をひとりで表すと、素朴、かつ自分たちの生活様式や文化を大切にしている民族と言えます。私自身は、この事実を心からしっかりと受け入れてきたというより、受け入れることに痛みが伴ったと言って良いと思います。イフガオ州にも開発の波がおよんだ半世紀の間、ラガウエ町では、「アヤガン族は社会経済に貢献しないどころか、福祉の重荷になっているグループだ」と悪口を言われるほどでした。また、政治家たちの中にはアヤガン族の票田をねらい、この眠れる、かつ自己主張しない民族を最大限利用してきた人たちもいました。

Q 12年間働かれたセンターで力を入れたことは何ですか？

A 広い意味での教育です。子どもたちの教育とともに、親や地域の人々の教育、あるいはトレーニングに力を注ぎました。12年前、人々は単にサービスの受け手でしかありませんでした。しかし、今、センターが活動する7カ村の内、4つの村で収入を向上するためのグループが協働活動を行っています。彼らの農産物はラガウエ町のみならず、イフガオ州の農産品見本市でも脚光を浴びるほどになっています。

Q 他に変化はありますか？

A 2004年と2007年に行われた地方選挙に大きな変化を見ることができます。選挙の結果、現在、ラガウエ町議会の8議席のうち4議席をアヤガン族出身者が占めています。また、センターが活動する7カ村の全ての村長は、支援を受けるチャイルドの家族か、住民組織のリーダーが選ばれています。さらに、7カ村のサンゴニアン・カバタアン*では、7割の議員と4カ村の議長はチャイルドや元チャイルドが占めています。

まだまだ充分とは言えませんが、支援を受けるチャイルドたち、そして家族は、今の、そして来るべき世代の運命を再構築するための大切なステップを歩みだしています。

私は、現在、イフガオ州政府の職員として、棚田の保全も含めて少数民族の文化を守る仕事に就いていますが、12年にわたってチャイルドや親たちと苦楽をともにした中で培った精神が今の仕事に活かされています。チャイルド・ファンド・ジャパンと一緒に仕事ができたことに心から感謝しています。

*サンゴニアン・カバタアン：(青年評議会)は議員7名で構成され、青年層に影響を及ぼす案件の審議や意見集約を担っている。15歳から21歳までの青年層による公選制。

フィリピンの少数民族の現状と問題

松浦宏二(連絡調整事務所：プログラム担当)

フィリピンには、人口の10%とも15%とも言われる数の少数民族が住み、これらの人々は山間部やミンダナオ島地域で自らの言語や文化、生活習慣を維持して暮らしてきました。

大多数のフィリピン人が平野部に住み、16世紀から始まるスペインの植民地化や20世紀に入ってからアメリカの支配により欧米化、キリスト教化されているのに比べると、少数民族の人々の生活や文化は今も異なるところがあります。しかし、それゆえ西欧化したフィリピン人からは「文明化されていない人々」として社会的差別を受けたり、先祖伝来の地を奪われて経済的な搾取を受ける結果にもなりました。教育や保健サービスといった政府による社会サービスも届き難い地域が多いため、多くの少数民族は厳しい生活を強いられています。

こうした状況を改善するため、1997年には「少数民族権利法(Indigenous Peoples Rights Act)」が制定されましたが、生活状況は大きく変わっていません。さらに近年は違法伐採に伴う土砂災害、鉱山開発に伴う土壌・水源汚染、ダム建設による立ち退きなど、経済開発をめぐる活動が少数民族の生活を脅かしています。

特集 フィリピンの少数民族

～チャイルドが撮影した“私たちの暮らし”～

少数民族の普段の暮らしを、チャイルドが撮影してみたらレンズの向こうに何が見えるでしょうか？
 「日本のスポンサーの皆さんに伝えたいと思うものを、自由に撮ってほしい」と、アヤガン族のチャイルドたちにカメラを渡しました。
 フィリピンで支援する23ヶ所の地域の中で、もっとも山深いというセンター28（P2の地図参照）の暮らしを、6人のチャイルドによる写真と、コメントとともにご紹介します。



“写真を撮るのは初めてなので、とてもワクワクしました”カメラを手に持つコラソン:17歳 小学校6年生。8人きょうだいの4番目。夢は学校の先生。
 <スタッフ撮影>



お母さんが農作業に行くところ。かごの中には、上着、お弁当、カマが入っています。<コラソン撮影>



[PHILIPPINE BASKETRY]より

棚田をはじめ、傾斜の多いこの地域では、頭や肩に乗せて荷物を運ぶために、昔から籠が重宝されてきた。



私の家族全員です。家の床下では食事を食べたり、近所の人があつろいだり、弟妹の遊び場でもあります。それから、両親はヤシの実を割ったり、仕事もします <コラソン撮影>



イフガオ地域の伝統的な高床式の家。床下での炊事の煙によって、竹や木がいぶされ、丈夫になり100年ほど住むことができるという <スタッフ撮影>

Map of our Ayangan Home

私たち、アヤガン族が暮らす地域

ピナハガン山

Mt. Binah

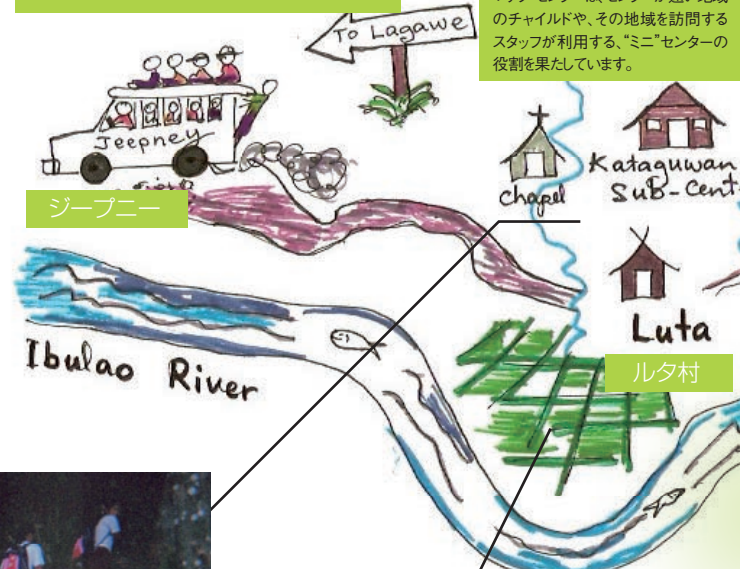


センターのある、ラガウエへ向かう道

*イフガオ州の州都、ラガウエは徒歩で3～4時間山道を歩き、さらにそこからジープニー（乗り合いバス）で数十分かけて行きます。

サブ・センター

*サブ・センターは、センターが遠い地域のチャイルドや、その地域を訪問するスタッフが利用する。“ミニ”センターの役割を果たしています。



ジープニー

Chapel

Kataguwan Sub-Cent

Luta

ルタ村

Ibulao River



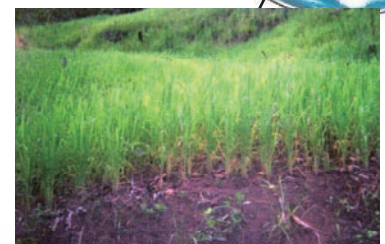
これは私の家の中。学校の課題で作成したものを姉が貼ってくれました。写真の男の人は、州知事さんです。女の人は選挙に落ちた人です。選挙のときに配られるポスターを姉が飾っています。<コラソン撮影>



私の両親です。とても仲が良く、一緒にいると幸せそう。
 <コラソン撮影>



学校から家に帰るところ。僕の家まではとても遠くて2kmぐらい歩きます。手前の男の人はカゴに豚を入れて運んでいます。<ジョン:男 13歳 小学校5年生撮影>



僕たちの山にも、稲が育っている様子を見せたくて撮りました。1年に1度、収穫するけれど十分じゃない。<ジョン撮影>



両親と妹がえんどう豆の煮物とご飯を食べているところ。食事のときは、おしゃべりをしてはいけないといわれています。<ミシェル:女12歳小学校5年生撮影。10人きょうだいの下から2番目。大家族のため、夜は寝るところが足りていない>



学校の朝礼。国旗掲揚にあわせて国家を歌います。それから授業の前に少し運動をします。<フェリックス:男13歳6年生撮影>



隣の家の壁をためにしに撮ってみた。<フェリックス撮影>



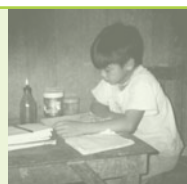
私の叔母さんフローラと年下の叔母さんのアニタが晩御飯に食べるお米を杵でついでいるところ。<ジョセフィン:女13歳5年生撮影>



これは、僕の家です。生活の厳しさを知ってもらうために、撮影しました。でも、僕は落ち込んでいません。勉強を続けて、いつかもっと良い家に家族で暮らすために挑戦するつもり。<エフレン:男16歳6年生撮影。栄養不良のためセンターから、ビタミン剤を支給された。>

この地図は、ハイスクール4年生のグレイス・ギホマンとセンター長の共同制作です

編集後記 カメラマンとなってくれたチャイルドたちは、皆写真を撮るのが始めてでした。中には「壊したらどうしよう」と心配だった。家には弁償するお金がないから」とコメントした子もいました。チャイルドたちの目を通して、厳しくも素朴な普通の暮らしを感じていただけたらと思います。最後にチャイルドたちの年齢と学年をご覧ください。多くの子が経済的な理由や、学校が遠いことによる欠席などで遅れています。時間はかかりますが、たくましく成長していくチャイルドたちをどうぞこれからも見守り支えていただけたらと願っています。 (支援者サービスグループ: 小野 桂子)



ランプの明かりで勉強するチャイルド。<スタッフ撮影>

スリランカ情報

アーユボーワン! (こんにちは)

8月末にお送りするSMILES次号より、スリランカの文化やスポンサーシップ・プログラムに関する情報をお伝える連載コラムが始まります。8月号では「スタッフによる、スリランカ現場報告」を特集します。どうぞお楽しみに!

現在、チャイルド・ファンド・ジャパンが支援しているプロジェクト

フィリピン パラワン族生活改善プロジェクト



フィリピン

[支援がもたらす少数民族の希望]

- [ネパール]
- ▶ 保健行政システムのキャパシティ・ビルディングによるネパールの女性と子どもの栄養改善計画
- ・栄養改善事業
- ・オカルドゥンガ地域病院事業
- [フィリピン]
- ▶ パラワン族生活改善プロジェクト

- 協力期間: 2003年6月1日～2009年5月31日
- 支援対象: パラワン州ブルックスポイント町に住むパラワン族300世帯。
- 協力団体: AMP-IPM* (Augustinian Missionaries of the Philippines Indigenous Peoples Mission)

*フィリピンの修道会で、社会福祉活動を担う使徒会の1つ。少数民族パラワン族の文化継承、保健・栄養改善、教育活動、環境保護活動を行う。

パラワン島の少数民族パラワン族の人々は、後からの入植者たちにより肥沃な平野部を追われ、山間部の傾斜地で生産性の低い農業に従事してきました。貧困のため、子どもたちは学校に行けず、成人の識字率も低い状態を余儀なくされてきました。

4月に、山間部にあるアリアゴス村を訪ね、村のリーダーであるピト・カルマンさん(48歳)に話を聞く事ができました。「このプロジェクトによって、まず、識字教育により読み書きを習い、計算力を身につけ、地域の市場で商売ができるようになりま



した。補食による栄養改善、定期検診により病気にかかることも

補食サービスを受ける子供たち

少なくなり、病気にかかった時には町の病院に搬送してもらえるようになりました。将来の希望は、市場でもっとバナナや野菜を売りたいので、カラバオ(農耕に使う水牛)に乗せて運ぶための道が欲しいです。活動の拠点となる集会所が壊れかけているので、しっかりしたものに建て直したいです。」

このように彼らの生活は少しずつ改善されていますが、この地域では感染症のマラリアが発症しているなど、生活はまだまだ厳しい状況です。さらなる支援が必要であると感じました。(募金グループ: 東方 信也)



村人の前で話をするカルマンさん

*皆様に、このプロジェクトへの募金キャンペーンのチラシを6月末にお送りします。ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

保健行政システムのキャパシティ・ビルディングによるネパールの女性と子どもの栄養改善計画 [札幌と東京での報告会]



ネパール

JICA草の根技術協力事業(パートナー型)として実施

- 協力期間: 2006年10月1日～2009年9月30日
- 支援対象: ネパール保健省、中部・西部地方の5郡の全保健行政スタッフ(当初6郡から変更)
- 協力団体: NPCS(Nutrition Promotion and Consultancy Service)

3月に、ネパールから一時帰国した吉田希による支援プロジェクトの報告会を開催しました。吉田は、JICA草の根技術協力事業のプロジェクト・マネージャーとして、2006年6月からネパールに赴任し、事業の運営管理を担っています。(SMILES 5.8、11号ご参照)

今回の報告会は、スポンサーシップ・プログラムに比べ、現地の活き活きとした様子をお伝えする機会が少ない支援プロジェクトの報告会として、一人でも多くの支援者の皆さまに参加いただければという思いで開催しました。

開催地は、吉田の出身地札幌と、チャイルド・ファンド・ジャパンの事務所のある東京の2ヶ所。札幌では、吉田の母校の藤女子大学のカトリック・センター主催の報告会と、JICA札幌(JICAの国内機関の一つ)主催の草の根技術協力事業の報告会で、NGO3団体のうちの1団体として参加しました。

事前のご案内は、ホームページや機関紙、各種メーリングリスト(札幌近郊の方にはダイレクト・メールも)等を試みましたが、盛況の報告会には到らず、報告会開催方法は、今後の大きな検討課題となりました。

しかし、その分、報告会場はアットホームな雰囲気にもまれ、お越しいただいた方々

の関心に合わせて、吉田のパソコンに納まった大量の現地写真の中から、村の様子、現地の食事や生活の様子をご紹介し、音も入った映像から現地の空気を感じていただきました。また、活動で実際に使用している「栄養紙芝居」や「サルボタンピト」(栄養改善食)なども実際に手にとり、匂いをかいだり、口にさせていただくことができました(試食は東京のみ)これからも、支援プロジェクトを直接ご報告する機会を設けるよう努力してまいりますので、お越しいただければ幸いです。

(プログラム・グループ: 細井なな)



報告会に来てくださった恩師の箱山先生と、クルタ*を着た吉田

*クルタ: ネパールの女性の衣服の一つ。吉田は、現地では、村に入っても外国人として目立たず、動きやすいクルタを愛用。

*吉田は、一時帰国中、北海道テレビと北海道新聞から取材を受けました。北海道テレビでは3月17日の報道番組「イチオシ」、北海道新聞では4月18日の「ひと2008」欄で紹介されました。掲載記事や映像は6月中旬以降ホームページもご覧ください。



北海道新聞の記事

ハロハロのページ

新生ネパールへの期待

ネパールでは、新しい憲法を制定するための議会選挙が4月10日に行われました。国際社会は公正な選挙実施支援に乗り出し、日本政府も国際平和協力法に基づき、選挙監視団を派遣することになりました。1995年からネパールで活動を続けてきたチャイルド・ファンド・ジャパンも、政府からの要請を受けて、選挙監視団に参加することとなりました。プログラム・グループの細井ななが、そこで見てきたこと、感じたことをご報告します。

ネパールでは、1990年の民主化以後も貧富の格差がより一層拡大する中、96年以降、マオイスト*が台頭し、貧困層の支援を得て「人民戦争」が全国規模で展開されました。2005年には国王が直接統治に乗り出しましたが、06年4月に主要政党とマオイストが共同で進めた第2次民主化運動により、国王が直接統治を断念、政党民主主義が復活し、政府とマオイストの間で和平合意がなされ、新憲法制定のための議会選挙が今回実施されることとなりました。

現地では、投票日の前日夕方まで爆発事件などの選挙妨害が続き、「選挙は本当に実施できるのか」という不安の声も聞かれました。

しかし、私が目にしたのは、ネパールの選挙スタッフが一心不乱に準備に取り組む姿でした。そこには、「なんとしてでもこの選挙を実現させる」という強い意志が感じられました。

そして迎えた選挙当日。投票所では夜明け前から選挙スタッフと政党関係者が最後の手続きを行い、午前7時の投票開始前から、この日を待ち焦がれていた有権者たちが列をなしていました。午前11時には、炎天下の中、人々は長蛇の列に辛抱強く並び、高齢者や身体に不自由のある人は、ごく自然に列の先頭に導かれていました。

「この日を10年待ったんだもの。待つことなんてへっちゃらよ!」とびっぴりのおしゃれをした女性が笑顔で答えました。

「生きてこの日を迎えることができてよかった」と語る老夫婦もいました。

空気を察してでしょうか、子どもたちも皆、笑顔です。

その陰に、期待に胸を膨らませて投票所に訪れたものの、有権者リストに名前を見つけることができず、失意のうちに投票所を後にする有権者の姿もありました。しかし、そうした人も、暴力に訴えることなく、理性と忍耐をもってそれぞれの選挙日を迎えている姿が印象的でした。

選挙妨害などで、全国約2万強の投票所のうち75ヶ所で投票が延期されました。しかし、多くの投票所で、選挙スタッフ、政党関係者、そして60%という投票率を示した有権者のそれぞれが、その責任を果たしたことが、何よりの成果だったのではないかと感じました。その一方で、スタンプの押し方を間違え無効票となった投票用紙の多さを開票所で目にし、高い非識字人口を痛感しました。

選挙結果は、政党として初めて選挙に参加したマオイストが第一党となるものでした。この結果については、様々な見方があるようですが、多くの人が「変化」と「平和」を求めたことは確かでしょう。“New Nepal!”…カトマンズを立つ前に立ち寄った店のご主人が、掛けてくれた言葉です。この選挙は、新生ネパールに向けての大きな一歩となりました。しかし、今後2年という年月をかけて新しい憲法をつくる過程には、これまで以上の困難が予想されます。ネパールの未来を担う子どもたちが平和を享受しながら成長できる日に向けて、支援活動を続けてまいります。

*マオイスト:毛沢東主義派を名乗る共産主義勢力

(プログラム・グループ: 細井なな)



期待を込めた一票



開票所前の支援者たち



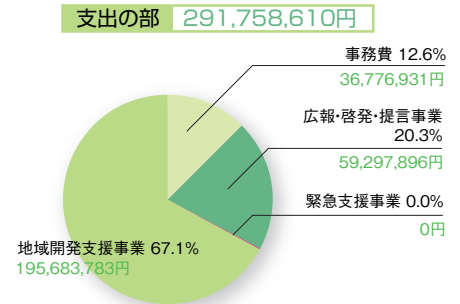
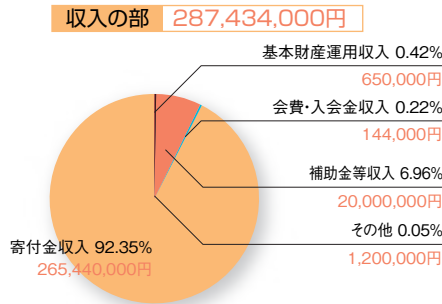
日本の選挙監視団メンバー(EU選挙監視団長と)。前列左が、細井

インフォメーション コーナー

2008年度予算の概要

2008年3月12日にチャイルド・ファンド・ジャパンの総会が開かれ、2008年度の事業計画と予算が承認されました。決算では収支を改善するよう心がけて参ります。引き続き皆様のご支援を心からお願い申し上げます。

次期繰越収支差額 22,574,308
 前期繰越収支差額 26,898,918
 当期収支差額 -4,324,610



重要 「認定NPO法人」申請中です、認定され次第お知らせいたします。

『認定NPO法人』取得のための申請を昨年7月に国税庁に行い、審査が継続されています。『認定NPO法人』として認定を受けると、支援者の皆様は寄附金控除を受けることができます。認定の通知を受けましたら、皆様には直ちにお知らせいたします。同時にチャイルド・ファンド・ジャパンのホームページでも告知いたします。『認定NPO法人』についてのお問合せは会計・庶務グループの吉川(03-3399-8123)までお願いいたします。

報告 「第2回ピース・チャリティ・コンサート」報告

ヴァイオリニストの林原澄音さんによるチャリティ・コンサートが、4月12日に東京オペラシティ近江楽堂で行われました。2006年に続いて2回目となる今回はチケットが完売し、多くの方にご来場いただくことができました。チケットの収益は、フィリピンやネパールの支援プロジェクトに活かされます。



お願い 1クリックが1円の募金になります!

価格比較サイトの『価格.com』のクリック募金を通して2006年12月から今年の4月25日までに、2,456,626円のご寄附をお寄せいただいています。しかし、ここ数ヶ月は漸減しています。チャイルド・ファンド・ジャパンのホームページの左下にあるバナー(図参照)からアクセスしてクリックしてください。ぜひ、お知り合いにもご紹介ください。



報告 支援者サービスについて11カ国の担当者と情報交換

3月30日～4月5日、エクアドルで開催されたスポンサーシップ・ネットワーク会議に支援者サービスグループの木村訓子が出席しました。ChildFund Alliance*に加盟している12団体のうち11団体が参加したこの会議では、支援者窓口となる部署の担当者が一堂に会し、チャイルドや家族、地域に関する情報をわかりやすく迅速にスポンサーの皆様へお届けすること、また団体の信頼性を高めることで、多くの方に安心してご寄附いただけるということについて意見交換をしました。国によって寄附文化の違いはあるものの、加盟国と連携しながら、スポンサーの方々に「支援してよかった」と言ってもらえるよう今後も努めてまいります。



エクアドルの子どもたちと

お願い ご家庭に眠っている古本を、今年も送ってください

一企業との協働イベント チャリティ古本市2008開催決定!一

今年も企業5社と協働でチャリティ古本市を8月25日から29日まで開催します。ご家庭に眠っている古本を、ぜひ送ってください。

〇お送りいただきたい本

- ・文庫・新書(17×11cmのサイズ)
- ・単行本(新書サイズより大きい、ハードカバーの本)
- ・児童書

×受付られないもの

- ・雑誌・週刊誌全般・コミック全般・非売品(同人誌・パンフレット等)
- 問い合わせ先:チャイルド・ファンド・ジャパン事務局
 『チャイルド・ファンド・ジャパン古本市係』

住所 東京都杉並区善福寺2-17-5 電話 03-3399-8123
 誠に恐縮ですが、送料はご負担願います。本の締め切りは8月8日(金)です。古本市の日時、場所など詳しい内容はチャイルド・ファンドのホームページで追ってお知らせします。



ChildFund Japan

Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンはここに掲げるビジョン(目標)、ミッション(使命)に基づいて活動します。

ビジョン(目標)

すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成

ミッション(使命)

生かし生かされる国際協力を通じて子どもの権利を守る

スマイルズ <チャイルド・ファンドだより SMILES> 2008年5月発行

〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5

特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン

理事長 深町正信(青山学院院長) 事務局長 小林毅

TEL. 03-3399-8123 FAX. 03-3399-0730 E-mail: childfund@childfund.or.jp URL: http://www.childfund.or.jp/